

平成27年度歯科医療連携協力医研修会が開催されました

平成28年1月21日（木曜日）午後7時から、当センター研修室で平成27年度歯科医療連携協力医研修会を開催し、歯科医師40名、歯科衛生士28名の合計68名の方々の参加がありました。

テーマ「診療室における緊急対応

～ 緊急薬投与の基本的知識と手技 ～

講師：当センター歯科医師 平林 幹貴



患者の全身偶発症の発症で、歯科診療室における緊急対応が必要な場合、自院スタッフが身につけておくべき基本的な処置を確認することを目的に、講義およびデモを行いました。

【講義内容】

1. 歯科診療時の偶発症発症と初期対応の重要性

歯科診療時の偶発症の約75%が、局所麻酔使用前後に発生している。偶発症の内容として①神経原性ショック、②過換気症候群、③血管収縮薬過敏症などが挙げられる。現在都内では救急車の要請から到着まで平均8分かかっており、救急隊到着まで全身状態の評価や必要に応じて酸素投与、救急薬の投与などの初期対応を行うことが大切である。

2. モニターや触診で得られる情報

生体管理モニターを使用することで、血圧や脈拍数、SpO₂などのバイタルサインをチェックし、脳血管障害（血圧上昇、脈拍数減少）、アナフラキシーショックや心筋梗塞（血圧低下、脈拍数増加）、血管迷走神経反射（血圧低下、脈拍数減少）といった患者の全身状態の変化を把握することができる。モニターは必要な時にすぐに使用できるように、スタッフが基本的な操作方法に慣れておくことが必要である。さらに患者の平常の血圧や脈拍数を把握し、診療室入室から血圧が約30%以上上昇した場合は、歯科治療を中止する目安となる。

また緊急時に診療室にモニターがない場合、患者の脈拍を触診することにより脈拍数、リズム、大きさなどが得られる。橈骨動脈の場合、触知できなければ収縮期血圧が80mmHg以下であることが推定できる。

3. 診療室に常備すべき救急薬と投与方法

常備すべき薬剤としてアトロピン硫酸塩（抗不整脈薬→脈拍増加作用：皮下注射もしくは筋肉内注射）、エフェドリン塩酸塩（血圧上昇作用：皮下注射もしくは静脈内注射）、アダラート[®]カプセル（血圧低下作用：経口投与）などがある。

4. 安全な歯科治療のために

- ① できる限り医療面接を詳細に行う。
- ② 診療室でのバイタルサインの確認を行う。
- ③ スタッフ間で緊急時の対策を強化する。



地域歯科医療機関へ受診の働きかけをすすめています

当センターでは、障害のある方が住み慣れた身近な場所で、安心して歯科診療が受けられることを目指して、地域の歯科医療機関との連携をすすめています。

待合室に、都内地区口腔保健センターと協力歯科医療機関（協力医・登録医）の所在地マップを掲示し、歯科診療にも慣れ、今後地域歯科診療所での定期管理を希望される患者さんには、地域歯科医療機関への受診を働きかけています。

今後、先生方の診療所にご紹介させていただく際には、ご理解とご協力をお願いいたします。



待合室に掲示しているマップの一部



地区センター



協力医・登録医

センター新任職員の紹介

平成28年度、新たに4名の医療職員および2名の事務職員が加わりましたのでご紹介いたします。



前列右から：歯科医師：佐藤 仁
歯科衛生士：小川 彩花
後列左から：診療放射線技師（非常勤）：田持 昭彦
薬剤師（非常勤）：荒武 菜津子
事務（医事：非常勤）：高田 理生
事務（庶務：非常勤）：新田 彩季

「歯科医療従事者向け手話 集団研修会」に御参加ください

第1回「基礎編」	10月12日（水）	} いずれも18:30~20:30 当センター8階研修室で開催します。
第2回「治療編」	10月19日（水）	
第3回「予防・受付編」	10月26日（水）	

この研修会は初めて手話を学ぶ方が対象となっています。第2・3回目は応用編になりますので、以前受講された方にもおすすめいたします。御希望の回をお申し込みいただけます。

申し込み・問い合わせ先：センター研修担当

「連携だより」に関する問い合わせ：東京都立心身障害者口腔保健センター・医療連携室

TEL (03) 3235-1141 (代) / FAX (03) 3269-1213

URL <http://www.tokyo-ohc.org/>